

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

## 寒川町立寒川中学校

研究テーマ：「みんなで学び合い・高め合える学校づくり」

～ みんな にこにこ 一生懸命 生徒の主体性を育む指導と評価の一体化を目指して ～

### 1 実践の目的

平成30年改訂の学習指導要領では、目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理された。これを受けて、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

本校では昨年度より、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に関する手法の確立を標榜し、学校全体で模索しながら指導と評価の一体化を図ることにより、生徒の主体性の向上を目指してきた。昨年度の課題として、同一教科においても担当教員の裁量による部分が大きく、評価の基準等の統一性が不足していることが挙げられた。

昨年度の課題をふまえた今年度の取り組みとして、「主体的に学習に取り組む態度」について、各教科における統一的な評価手法や評価指針の開発を主題とし、各教科における生徒および生徒集団の主体性の育成に向けた授業づくりの視点を得ることを目的とした。

### 2 実践の内容

(1) 7月19日 校内研究全体会

1学期のまとめとして、各教科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について、取り組んでいる内容および学習評価について困っていることについて共

有を行った。各教科における取り組みの共有を通じて、「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について、以下の3点が示唆された。①ふり返しシートなどを活用して生徒の学習状況の認識について評価を行うことが生徒の学習改善にも貢献する。②パフォーマンス課題や作問などを用いた評価を行うことによって、知識をどのように活用しようとしているかについて評価することができる。③実技を伴う教科については、取り組みを通じた生徒自身の成長点や課題点を明らかにさせることにより、学習の調整能力について評価することができる。以上の3点の視点をふまえ、教科の特性に応じて、学習評価を計画的に授業づくりに組み入れることが重要となることについて再認識した。

(2) 8月21日 校内研究講演会

7月に実施した職員アンケートをもとに、各教科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について困っていることについて、安藤先生よりご助言をいただいた。全教科において共通して、指導に生かす課題(形成的な評価)と総括的な評価としての課題に分けて提示することが大切であり、生徒が自分の学習活動のふり返しができる力(自己評価力)を育成することも重要である。また、評価規準の明示については、「概ね満足できる状況と判断されるもの(B)」

を示すだけで良く、生徒の実態に基づいて評価規準を作成することも大切であることを学んだ。

### (3) 11月9日 校内研究全体会

第3学年数学科「相似な図形」に関する授業を行った。本授業では、生徒集団がともに学習を調整しながら学びを深めていく姿を目指し、学び合い活動や発表活動に重点を置いた授業提案を行った。事前に学習の見通しを持つことができるように黒板に本時の流れを提示したり、日常生活に即した課題設定を行ったりすることにより、本授業を通じて、他者と協働しながら学習課題の解決に向けて粘り強く学習に取り組む生徒の姿が導かれた。

研究協議では、4～5名のグループを編成し、研究授業の内容をふまえ「主体的に学習に取り組む態度」の育成や評価の手立てについて20分程度のグループ協議を行った。グループ協議において話し合った内容を全体で共有し、本研究授業での成果や課題についてまとめた。安藤先生より指導・講評をいただき、「主体的な学び」の展開に向けた授業づくりの視点について、全職員で学びを深めることができた。生徒の「主体的な学び」を導くためには、教師の仕掛けが重要であり、生徒が「取り組みたい」と思うことができるような学習課題や学習活動の設定が肝要となること、そして教科の枠組みを越え、全校的に取り組むことの重要性について再認識することができた。

## 3 実践の成果

### (1) 教師の変容について

1年間を通じて「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価について研究に取り組み、各教科における評価手法の充実化を図

ることができた。講演会や協議会・研究授業を通して、各教員の評価に関する考え方を都度更新することができ、それぞれの授業実践へとつなげることができた。

### (2) 生徒の変容について

今年度は各教科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の手法の具体化を目指して取り組んだ。総括として用いる評価に留まらず、指導に生かす評価という視点を教員が持ち、授業実践に取り組んだ。生徒の変容として、困難な課題に対して諦めずに粘り強く学習に取り組む様子や、見通しを持ちながら学習に取り組む様子が見られた。

## 4 今後の展開

### (1) 今後の研究の方向性

今年度の成果は、生徒集団が主体的に学習を展開することのできる授業の実現に向け、指導案の作成から検討をふまえ、実践を通じて全教員で学びを深めることができたことである。昨年度より継続的に取り組んでいるテーマのため、学習評価に関する教員の理解が充実してきた。

### (2) 残された課題への対応

今年度は各教科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に関する統一的手法の開発を重点として取り組んだ。しかし、依然として教科内における蓄積が不足している点や、教科の枠組みを越え、学年や学校として生徒を育成するという手立てが不足している点が課題として挙げられる。以上の課題をふまえ次年度以降は、今年度の成果や課題をもとに、より具体的なテーマを設定し、生徒集団の主体性の向上を目指していきたい。